

基本方針 4 歴史に学び、未来を拓く伊豆の国市

I 前期基本計画（平成 29 年度～令和 3 年度）

1 これまでの主な取組実績

(1) 施策の大綱 4-1 歴史・文化・芸術を生かしたひとづくり・まちづくりの推進

主要施策	主な取組	実績
歴史に学ぶまちづくりや都市交流の推進	文化財の保護・活用	・ H30 年度は、文化財パンフレットを作成。 ・ R1 年度は、文化財シンポジウムを開催。
	韮山郷土史料館の機能移転	・ 建物の耐震性が低いため、H30 年度に「伊豆の国市郷土資料館」として中央図書館へ移転した。
	韮山城跡に関する調査の推進	・ 国指定史跡指定の実現に向け、韮山城跡整備部会により協議を重ねた。
	守山中世史跡群の整備の推進	・ 守山中世史跡群整備部会の指導等の下に各種計画を策定した。
	歴史的風致維持向上計画の策定をきっかけとした地域のブランド化の推進	・ H30 年度は、「伊豆の国市歴史的風致維持向上計画」を策定し、国の認定を受けた。
	世界遺産となった韮山反射炉の次代への継承	・ 市内の中学 1 年生を対象に韮山反射炉検定を実施し、R1 年度時点での実施率が 100%となった。
	小・中学校の社会科見学の推進 （景観区域、国指定文化財、地域教材の活用） 小・中学校における郷土学習によるふるさと意識の醸成 （伝統文化芸能等の観賞体験、地域教材の活用）	・ R1 年度は、韮山反射炉ガイダンスセンターにおいて、小学校による企画展や、鋳物づくり体験を実施。 ・ 小・中学校では、史跡巡り（韮山反射炉や江川邸、願成就院等）を実施した。 ・ R2 年度は、地域教材本「わたしたちの伊豆の国市」教材本を改訂し、本市を活用した小学校総合の時間においてふるさと意識の醸成に努めた。
	高齢者学級における伝統文化芸能等の取組	・ 各地区における高齢者学級事業において発表会等を実施。
	定期的な郷土資料の企画展示	・ H29 年度から R2 年度まで、郷土資料館における常設展示及び企画展示を実施。
文化・芸術活動の推進	伝統行事の保護と後継者の育成	・ R1 年度は、モンゴル国ソングノハイルハン区議長をはじめ児童の訪問を受けた。 ・ モンゴル国へ中学生海外研修生を派遣した。 【実績】 H30 : 21 人、R1 : 18 人 ・ モンゴル国へ公式訪問団を派遣した。 【実績】 H30 : 8 人、R1 : 8 人 ・ モンゴル国へ市民訪問団を派遣した。 【実績】 R1 : 9 人
		・ 伝統芸能育成として「伊豆の国市能友の会」の活動に対し、補助金を交付した。

基本方針 4 歴史に学び、未来を拓く伊豆の国市

主要施策	主な取組	実績
文化・芸術活動の推進	市民ニーズに対応し集客性も考慮した、文化・芸術の鑑賞機会の提供 文化・芸術の普及活動の展開	- 文化芸術に親しんでもらうため、文化振興自主事業を実施した。 【実績】 H29：6事業、H30：5事業、R1：6事業、R2：2事業 - レクチャーコンサート「アクシスの夕べ」を開催した。 【実績】 H29：9回、H30：9回、R1：9回、R2：5回、R3：6回 - 他自治体等との共催による文化・芸術鑑賞機会の増加のため、伊豆市グリーンコンサート 2017・2018・2019、0歳から入れる親子クラシックコンサート、NHK公開録音、宝くじまちの音楽会を実施した。
	伊豆の国市文化協会を中心とした市民の文化・芸術活動の支援・育成	文化活動を支援するため、文化協会へ活動に対し補助金を交付した。 【交付実績】 H29：77団体 954名、H30：79団体 961名、R1：71団体 885名、R2：65団体 795名、R3：62団体 682人
	芸術祭の開催の検討	市民文化祭実行委員会へ支援を行った。
その他		- 長岡京市への訪問及び長岡京市からの訪問を受けた。 【実績】 H30：86人、R1：59人 - 歴まち認定都市の連携を図るため、中部地方整備局管内において「歴史まちづくりカードラリー」を開催した。

(2) 施策の大綱 4-2 次代を拓く教育と研究の推進

主要施策	主な取組	実績
安全で安心して学べる教育環境の確保	学校における怪我の縮減	学校における怪我件数の割合の削減に向けて、廊下の歩行の仕方等、校舎内外での安全な過ごし方について話し合い活動を行ったり、日頃から庁舎内外の安全点検を実施したりすることで、けがを未然に防ぐよう努めた。
	平等な学習機会の提供	- 心の教室相談として、各中学校に教諭又は養護教諭免許を持つ相談員を配置したことで、多くの利用者が相談に訪れた。 - 田方地区教職員に同一水準の研修機会を確保し、資質向上を図った。 【実績（受講者数）】 H29：38人、H30：44人 - R2年度の保護者目線から見た「楽しく通えている園児」の割合を把握するため、保護者アンケートを実施した結果、96%の保護者が楽しく通えていると回答した。

基本方針 4 歴史に学び、未来を拓く伊豆の国市

主要施策	主な取組	実績
安全で安心して学べる教育環境の確保	安全な給食の提供	・保育園では、「大量調理施設衛生マニュアル」に則り、給食調理室の衛生管理を徹底している。食物アレルギーのある園児に対しては「アレルギー対応マニュアル」に基づいて給食提供を実施している。 ・R2 年度に学校における食物アレルギー事故防止の徹底を図るため、「学校給食における食物アレルギー対応マニュアル」の改正を行った。
	学習生活支援員等の市単独支援員充実と見守りの推進	・学校支援ボランティアや施設維持補修などの委託事項に見守り活動を依頼した。実施割合は 100%となった。
	年齢に応じた防災教育の充実	・H29 年度から災害用補助食等の備蓄や、園・学校ごとに避難訓練を実施した。
	安全安心連絡網事業の継続、拡充	・児童生徒の安全安心を図るため、保護者に対し緊急情報の提供を行うためのメール配信システム連絡網（マメール）を構築した。 ・R2 年度は、公立保育園・幼稚園は共通の保護者専用アプリを導入し、園からの情報をいつでもどこでも確認できるようにした。
社会全体で子どもを育てていく環境づくり	地域教材（副読本）の配布	・地域教材「わたしたちの伊豆の国市」を R2 年度に改訂。担当学年への配布割合 100%を達成。
	あいキッズ、家庭教育講座、ふるさと学級等の講座の実施継続	・小・中学生を中心とした子ども教室「あいキッズ」を開催した。 【実績】 H30：354 人 21 講座、R1：211 人 14 講座、R3：141 人 11 講座 ・青少年活動推進委員会による体験講座「ふるさと学級」の実施。
	おじいちゃん先生の継続	・公立保育園・幼稚園に各 1 名配置。
	学校を通じた世代間の交流（ゲストティーチャーを招いた授業、農業体験等）	・生徒の資質向上、人材育成に資するため、市内中学校で志龍塾実施事業を実施した。
	伊豆の国版コミュニティスクールの研究と実践	・コミュニティスクールの前身となる「地域共同本部」の設置を各地区へ推進している。 ・R2 年度内に市内 5 小学校において地域協働本部を発足し、残る 1 校についても R3 年度に発足する。今後は推進員を中心に各協働本部での活動を活発化する。
	ブックスタート事業や絵本の読み聞かせの継続実施	・健康づくり課と連携し、定期相談を利用しブックスタート事業を展開している。

基本方針 4 歴史に学び、未来を拓く伊豆の国市

主要施策	主な取組	実績
社会全体で子どもを育てていく環境づくり	図書館の一般図書や幼児用図書の充実	・ 図書館の利用者数は、R3 年度実績で 46,662 人／年（中央図書館：26,047 人、韮山図書館：20,615 人）
	「夢の教室」授業の実施継続	・ 市内小学校 6 校で小学 5 年生を対象に実施。
	茅野っこ広場（野外活動センター）等で行う青少年育成活動の推進（活動団体への助成、指導者養成）	・ 茅野っこ広場（屋外活動センター）の休日利用率の向上への取組を行った。
	次代を担うひとづくりをめざした世代間交流、国際交流等の実施	・ 市民と外国人との交流を図る国際交流協会の活動に対し補助金を交付した。
グローバル教育・情報教育の推進	小・中学校への ALT 配置による、身近なグローバル教育の推進	・ ALT を小学校に 2 人、中学校に 3 人配置。 ・ R2 年度からは、タブレットを活用し、コミュニケーション能力の育成を図った。 ・ R3 年度は、パフォーマンステストによる評価を行った。
	国際交流協会の協力による外国人との交流	・ 市民の国際化や文化的な生活の醸成を促し、外国人との交流を図る団体に補助を行った。
	授業における ICT の積極的な活用の推進	・ パソコン教室のタブレット機器を活用し、協働的な学びを深めた。 ・ 電子黒板を利用し、デジタル教材やインターネット動画を活用した授業を実施し、児童生徒の学習意欲向上に寄与できた。
	携帯電話やスマートフォン等の正しい使い方を含めた情報モラル教育の推進	・ 携帯電話を扱う事業者や警察官と連携し、児童生徒向け情報モラル教育を実施した。また、授業参観を利用し、保護者を含めた講話を実施した。
生涯学習の推進	生涯学習きっかけ作り塾の充実	・ 「生涯学習きっかけ作り塾」を実施。 【実績】 H29：28 回、H30：31 回
	生涯学習活動の充実（公民館講座、きっかけ作り塾等）	・ 世代を問わず大人から子どもまで、誰もが本に親しむための読書環境の改善（読書空間の保持、施設周辺環境の整備）を行った。 ・ 生涯学習きっかけ作り塾卒業後の同好会移行、新人講師の採用など、「学ぶ」から「教える」へ市民の成長を促す取り組みを継続している。生涯学習きっかけ作り塾卒業後、受講者から講師となった人数は、R1 年度の累計で 22 人となった。 ・ R2 年度は親子スポーツ体験講座「スポラブ」を 8 回開催した。
	自主サークル活動の場の提供	・ 社会教育施設の充実

基本方針 4 歴史に学び、未来を拓く伊豆の国市

主要施策	主な取組	実績
生涯学習の推進	生涯学習サポーター制度の充実	・サポーターの紹介
スポーツ活動の推進	身近にスポーツに親しむことができ、子どもから高齢者まで、様々なスポーツを愛する人々が、初心者から上級者までそれぞれの志向やレベルに合わせて参加できる運動機会の維持・充実	・市民スポーツの振興及び推進にあたり、各種スポーツの指導と助言及び教室やイベントによるスポーツ実施の機会を提供した。(スポーツ推進委員会、ニュースポーツ教室、チャレンジ・ザ・スポーツテスト、みんなのランニング&ノルディックウォーキング、みんなのラジオ体操) ・H30年度は、公認トレーニング指導士の資格を取得し、市民スポーツ活動の推進を図るため、トレーニング講習会を計12回実施した。 ・H30年度は、ハイキングを通じて市民のスポーツ交流の場を広く提供し、健康増進を図るため、「市民ハイキング」を計2回実施した。 ・R1年度は、市内スポーツ選手の発掘・育成・強化及び体力向上を目的として「市駅伝」を実施し、78チームが参加した。
	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の事前合宿を通じたモンゴルとの交流	・R1年度は、モンゴル国柔道ナショナルチームの事前合宿を実施した。
その他		・特別支援学級支援員配置人数を1名増の8人体制とし、個別対応の必要性が高いクラスに増員した。 ・部活動を担当する教員を支援するとともに、部活動の質的な向上を図るため、部活動指導員(菰山中:1名、大仁中:4名)を配置した。 ・いじめ問題対応委員会を開催した。 【実績】 H29:1回、H30:14回 ・不登校児童・生徒の居場所を確保するため、「わかあゆ(適応指導)教室」の運営日数を延ばした。 【実績】 H29:196日、H30:205日 ・教育現場の実情を把握してもらうため、学校及び所管施設の訪問を実施した。 【実績】 H30:8回 ・教育行政の施策や事業内容について「PDCAサイクル」を実施し、教育委員会運営事業に対する委員会を開催した。 【実績】 H30:3回

基本方針 4 歴史に学び、未来を拓く伊豆の国市

主要施策	主な取組	実績
その他		・大仁市民会館に代わる市民の生涯学習拠点として市民交流センター（大仁くぬぎ会館）を設置。 ・「広報いずのくに」や「FM いずのくに」を通じ、モンゴルの文化を毎月 1 回紹介した。 ・月一回モンゴル語講座を開催し、また要望のあった団体等へ出前講座を開催した。 ・市内中学校 3 年生に占める英語検定 3 級以上合格者の割合の向上を図った（合格割合は 18.3%）。R1 年度から学習指導要領が改訂され、小学校 3 年生から外国語指導が開始となり、外国人講師を 5 名配置した。 ・モンゴル柔道アカデミー及び柔道ナショナルチーム来訪時の通訳を務めた。 ・生涯学習を実施する場を提供するため、静岡県市町村振興協会助成金を活用して長岡中央公民館（あやめ会館）の修繕、工事を行った。 ・H30 年度は、スポーツ賞賜金として 46 件の交付があった。

基本方針 4 歴史に学び、未来を拓く伊豆の国市

2 指標

指標	基準値	目標値	最終実績値
文化振興事業における座席数に対しての平均来場者割合の向上	70.0%	75.0%	57.9%
学校を楽しみと思える子どもの割合	—	90.0%	81.0%
保護者目線から見た、楽しく通っている園児の割合	—	80.0%	98.4%

3 前期基本計画の取組に対する総合計画審議会の意見

(1) 令和3年度

- ・文化財の展示場所がない。
- ・観光での活用だけでなく、教育面での歴史遺産の保全・周知も厚くしてほしい。
- ・教育総合センターを設置してほしい。
- ・スポーツを行うことで健康寿命の延伸や生きがい・仲間づくりにつながる。福祉や生涯学習など、横断的な取組を行ってもらいたい。スポーツ協会を活用してほしい。
- ・スポーツを活用した取組として、自らの住むまちの新たな魅力を発見できる、ロゲイニングなどがある。
- ・総合計画には山木遺跡にもふれてもらいたい。
- ・近所の大人による子どもたちの見守り体制があると良い。
- ・質の高い保育・教育を提供するための人材の確保が必要。
- ・園給食で地産地消を行うためのつながりづくりが必要。
- ・伊豆半島における伊豆の国市の立ち位置を記載したらどうか。
- ・地域における少子化が進んでいる。子どもたちが地元に戻ってこない。進学を機に市外へ出た子どもたちを地元へ引き戻すための発信力の強化。
- ・結婚・出産支援と子育て環境の充実は一連の取組であり、横断的に取り組むべき。
- ・県外に出た子どもが地元に戻らないのは、地元の魅力を感じていないからでは。子どもたちに自分のまちのファンになってもらうための取組が重要。そのためにも、観光、農業、スポーツなどにおける学校との連携が必要。

基本方針 4 歴史に学び、未来を拓く伊豆の国市

Ⅱ 後期基本計画（令和 4 年度～令和 7 年度）

1 これまでの主な取組実績（～令和 5 年度）

(1) 政策の柱 4-1 歴史・文化・芸術を活かすまちづくり

主要施策	重点取組	実績
歴史資産の保護	埋蔵文化財発掘調査報告書の作成	・ R4 年度は、県からの技術派遣職員の指導を受け、「文化財年報」を刊行し、北条氏邸跡（円成寺跡）、守山砦跡、蛭ヶ島遺跡の発掘調査報告を掲載した。また、菰山城跡の発掘調査報告書を刊行した。 ・ R5 年度は、県からの技術派遣職員の指導を受け、「文化財年報」を刊行し、古墳・殿坂遺跡の発掘調査報告を掲載した。また、神明原遺跡・横宿遺跡・大庭遺跡の発掘調査報告書を刊行した。
	郷土資料館の移転	・ R4 年度は、市民アンケート及び小中学校教員アンケート調査を実施し、資料館移転構想市民意見交換会を開催した。 ・ 郷土資料館は大河ドラマ館跡地へ移転せず、時代劇場映像ホールを原状に復し、3 月より貸し出しを再開することした。
	文化財展示施設整備	・ R5 年度は、基本構想を策定。市民説明会を計 5 回開催、広報いずのくに 12 月号に特集記事を掲載するなど、構想の周知を図った。 ・ 基本構想・基本計画の策定によって、文化財展示施設の概要と整備方針を取りまとめた。また、市民説明会開催・特集記事掲載等を通して施設整備の意義と必要性を周知することで、伊豆の国市の歴史・文化の保護・調査研究・情報発信・郷土教育の機会創出に寄与する施設であることを示した。
文化・芸術の振興	アクシスのタベ有料化の検討	・ R5 年度に 1 公演の有料化を試行したところ、市費の負担額が多くなったため、検討を終了した。
郷土資産を学ぶ機会の創出	（再掲） 郷土資料館の移転	（略）
	（再掲） 文化財展示施設整備	（略）
	その他	・ R5 年度に、地域教材本「わたしたちの伊豆の国市」を改訂。当教材を用い、小学校総合の時間においてふるさと意識の醸成に努めた。

基本方針 4 歴史に学び、未来を拓く伊豆の国市

(2) 政策の柱 4-2 未来を築く教育の推進

主要施策	重点取組	実績
地域とともにある教育環境づくり	教育大綱の作成	・ R4 年度は、総合教育会議における内容の協議・調整や、大綱案についてパブリックコメントを経て、R5 年 2 月に教育大綱を作成した。
確かな学力を身に付ける教育環境の整備	(再掲) 教育大綱の作成	(略)
	教師の ICT 活用指導力の向上	・ 各学校で、タブレット及び電子黒板を用いた授業を積極的に行い、児童・生徒たちは、自ら調べ・考え、対話を進めて、発表する姿勢が活発になった。 ・ 教員は、電子機器を用いて、より効果的な授業用教材を作成し教員間で共有することで、授業の質の向上及び ICT を用いた指導技術の向上を図った。
	園児が英語に親しむ機会の創出	・ R4 年度は、長岡幼稚園をモデル園として、週 1 回 1 時間程度、外国人の先生による英語に親しむ機会を、5 歳児を中心に設けた。 ・ 園児及び保護者にアンケートを実施し、園児が楽しく英語に接していること、子どもたちが英語や異文化にふれるよい機会になっていることが分かった。 ・ 幼児期から自然な形で無理なく英語や異文化にふれあう環境づくりができた。
生きる力を育む教育の充実	(再掲) 教育大綱の作成	(略)

(3) 政策の柱 4-3 生涯学習の充実

主要施策	重点取組	実績
生涯学習の環境整備	電子図書館の導入と郷土資料デジタル化の推進	・ R4 年度は、電子図書館システムを導入し、R5 年度からの貸出開始に向け、導入する電子書籍の選定や郷土資料デジタル化を行った。 ・ R5 年度は、500 コンテンツを購入した。R6 年 3 月末までの貸出し状況は 408 コンテンツ、ログイン者数は 376 人であった。
	施設予約の簡略化に向けた制度設計	・ R4 年度は、施設予約の簡略化に向けてネット予約等の検討を行ったが、予約方法、減免規定、利用者状況等により、現状ではデジタルによる簡略化は困難であるとの結論を出した。 ・ システム更新と使用料の徴収について情報政策課と意見交換を行った。

基本方針 4 歴史に学び、未来を拓く伊豆の国市

主要施策	重点取組	実績
世代別の生涯学習の推進	20 歳（はたち）のつどいの実施	・ R3 年度からは、3 地区の中学校体育館を会場とした分散開催方式で行い、企画・運営は、各地区で組織された 20 歳のつどい実行委員会を中心に行った。 【実績】※各地区の合計 R4：343 人、R5：353 人
地域における生涯学習の推進	地域学校協働本部の拡充・強化	・ 地域学校協働活動推進員を中心に学校・地域の実情に合わせた活動を行った。 【実績】 R4： 大北小：子どもの通学時の安全 PJ＋花と緑の PJ ＊花の会と連携 大仁小：子どもの通学時の安全 PJ 長南小：子どもの通学時の安全 PJ＋地域の人材発掘 PJ 長北小：子どもの通学時の安全 PJ 菰南小：子どもの通学時の安全 PJ＋親父の会の事業へ地域で協力 菰山小：PTA の改革に合わせて連携 R5： 大北小：児童委員会活動、花壇・プランター手入れ、休業時水やり 大仁小：登下校見守り 菰南小：下校付き添いボランティア 長北小：敷地内の草刈り 長南小：通学路危険箇所点検、学校支援人材データ整備など ・ 各地域学校協働本部で全体会、運営委員会、小委員会（プロジェクトチーム等）の会議、地域学校協働活動推進員による協議を実施。 ・ R5 年度は、従来から実施している取り組みに加えて、学校からの支援ニーズに対応するため 2 学期前の草刈り、人材データ整備と授業補助人材の派遣など、新規の取組を始めた。
生涯スポーツの推進	元旦マラソン&ウォーキング大会、市駅伝大会	・ R4 年度は、長岡体育館周辺をコースとした元旦マラソン&ウォーキング大会を開催し、415 人が参加した。 ・ 菰山文化センターから狩野川堤防の周回コースとした市駅伝大会を開催し、324 人が参加した。 ・ R5 年度は、新たにノルディックウォーキングを追加し、川の駅、伊豆城山をコースとした元旦マラソンを開催し、565 人が参加した。

基本方針4 歴史に学び、未来を拓く伊豆の国市

主要施策	重点取組	実績
生涯スポーツの推進	元旦マラソン&ウォーキング大会、市駅伝大会	・ 韮山文化センターから狩野川堤防の周回コースとした市駅伝大会を開催し、358人が参加した。
	(再掲) 施設予約の簡略化に向けた制度設計	(略)

基本方針 4 歴史に学び、未来を拓く伊豆の国市

2 指標

指標	基準値	最新実績値	目標値
文化財と触れる企画展等の開催回数	20 回	24 回	20 回
授業で ICT を活用した習熟度別学習や協働学習などを積極的に実践した職員率	53.5%	93.2%	70%
講座等の定員数に対する参加率	66%	67%	75%

3 後期基本計画の取組に対する総合計画審議会の意見

(1) 令和 4 年度

- ・郷土愛・ウエルカムの気持ちの醸成について、今回の大河ドラマでは、江間地区が盛り上がったように、地域愛の醸成が形として表れており、観光客の満足度向上にもつながっている。こういった取組が市全体に広がっていくような施策が必要だと思う。
- ・市の偉人や遺跡などの歴史について、子どもに分かりやすい教育・施策を行ってほしい。
- ・教員の働き方改革として、中学生の部活動を学校から地域に移行することについて、令和 5 年度から順次取り組むよう通知がされているが、受け皿となる競技団体とのすり合わせや人材の確保、目的意識の違い、金銭の問題、送迎の負担など様々な課題がある。地域住民が協力して子どもたちの学びや成長を支える地域学校協働活動という活動があることを審議会委員の皆さんにも知ってほしい。
- ・新型コロナの影響で子どもしゃぎりや三番叟が 3 年連続で実施できず、どうやって継承していくかが課題となっている。地域の伝統を維持していくための方法を考える必要がある。

(2) 令和 5 年度

- ・市内小中学校に ICT 機器（電子黒板や生徒用端末）が普及したので、今後も授業内容の研究を進めていただきたい。また、実践されている好事例な授業を積極的に公開し、教員間の情報交換の機会が増えていくことが望ましいと考える。

基本方針 4 歴史に学び、未来を拓く伊豆の国市

Ⅲ 市民アンケートの結果

1 設問

第2次伊豆の国市計画に基づき、市が行っている取組に関して、普段の暮らしの中で感じている「満足度」と、今後取組を進めていくにあたっての「重要度」を教えてください。

※満足度……普段の暮らしの中でどれくらい満足しているか

※重要度……今後、どのくらい優先的に力を入れて解決、改善、向上に取り組むべきか

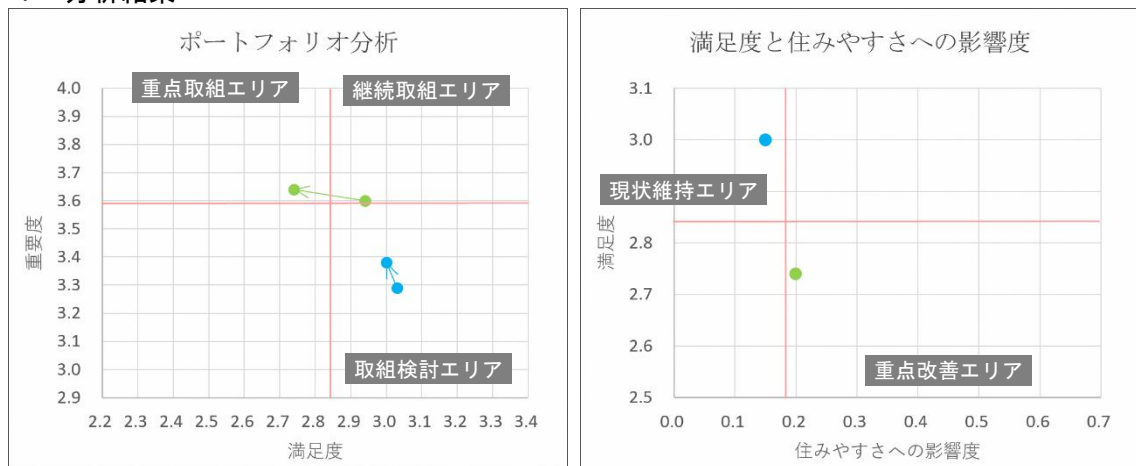
2 評価方法

5段階評価。数値が大きいほど評価が高く、数値が小さいほど評価が低い。

3 結果（平均値）

項目	R6 年度		R4 年度		R2 年度		H30 年度	
	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度	満足度	重要度
● 歴史・文化・芸術を生かしたひとづくり・まちづくりの推進	3.00	3.38	3.02	3.55	3.12	3.43	3.03	3.29
● 次代を拓く教育と研究の推進	2.74	3.64	2.89	3.94	3.08	3.63	2.94	3.60

4 分析結果



令和6年度に行った市民アンケートでは、「次代を拓く教育と研究の推進」は平成30年度に比べ、満足度が大きく下がり、平均を下回る結果となった。

加えて、満足度と重要度によるポートフォリオを行ったところ、「次代を拓く教育と研究の推進」は、満足度は平均以下だが、重要度が平均より高い取組であり、今後の重点課題として検討が必要な取組と考えられる。一方、「歴史・文化・芸術を生かしたひとづくり・まちづくりの推進」は、満足度は平均以上だが、重要度が低く、取組が過剰となっていないかどうかを検討する必要があると考えられる。

また、満足度と住みやすさへの影響度を分析すると、どちらの取組も住みやすさへの影響度は低いことが分かった。

基本方針4 歴史に学び、未来を拓く伊豆の国市

IV 第2次総合計画の取組実績を踏まえた今後の方向性

第2次総合計画では、文化・芸術活動が身近にある豊かな暮らしを目指すとともに、次代を担う子どもがこれからの時代を生き抜くために必要な能力を身につけるための教育環境づくりを進めてきた。

図書館機能の充実の観点からは、令和4年度に電子図書館システムを導入。令和5年度から電子図書館の提供を開始し、利用者がいつでもどこでも図書館を利用できるよう環境を整えた。また、旧3町の町史等の郷土資料をデジタル化し、誰でも閲覧できる資料として公開している。

今後は、電子図書館の利用促進を図るため、コンテンツ充実や周知など進めていく。

地域とともにある教育環境づくりの観点からは、「学校を核とした地域づくり」を目指し、地域学校協働本部を各小学校に設置し、通学時の見守りや草刈り、授業補助の人材派遣など、学校や地域の実情に合わせ様々な活動を行っている。

令和7年度には、各中学校にも地域学校協働本部の設置を予定している。今後は、市内すべての小・中学校が地域と相互に連携・協働し活動を行うことができるよう、人材確保と育成を進めていく。

確かな学力を身に付ける教育環境の整備の観点からは、ICT環境を活用した教育の充実及びグローバル人材の育成について、重点的に取り組みを進めた。

まず、GIGAスクール構想により、全校に1人1台端末及び電子黒板等を整備し、児童生徒の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図った。学習内容の理解度や考えを分かりやすく伝えること等についての効果が見られることから、今後は、教材の工夫や充実、支援体制の整備を図っていく。

また、子ども達が、授業や日常の中で英語に慣れ親しみ、楽しむことで、異文化への理解を深めるとともに、コミュニケーション能力の向上と国際性を育む機会を創出。令和5年度からは、市の全ての園児及び小学校2年生までの児童を対象を拡大し、幼児期から中学校まで切れ目なく学ぶ体制を整備した。

英語を始め、多様な考え方や異文化への興味の高まりがみられることから、今後も、子ども達の視野を広げ、多様な文化等を始め自らの学びを深めるため、幼児期からの切れ目のない英語教育をより一層推進していく。

そのほか、教育現場においては、少子化により学校単位での部活動の運営が難しくなることが想定され、また、教職員の負担軽減も課題となっている。

部活動の地域移行の推進は、各自治体における地域の環境や人的資源等が大きく影響することから、本市においては、生徒や家庭の負担に配慮するため、学校部活動を維持しつつ、指導員の確保や合同部活動による地域連携及び土日の地域移行を進めていく。